Q "お荷物部署"に異動させられた…

社内でも有名な"お荷物部署"に異動させられました。同僚の大半はやる気のかけらもない様子。私も気持ちが萎えそうです。脱出するにはどうしたらいいでしょう。

A

あなたのような立場に置かれたら、10人中9人は心が折れてしまうでしょう。勤務先が有名企業だと、ヘッドハンターから「そんな不遇に甘んじる必要などありませんよ」と甘い声がかかり、つい話に乗りたくなるかもしれません。不況の今でも、こうしたケースは少なくないのです。

しかし、数多くの人材をスカウトしてきた経験から言うと、そんな声に耳を傾けてはダメです。あなたはヘッドハンティングではなく、単純な労働力として「レッグ(足)ハンティング」されるに過ぎません。うっかり話に乗ると、坂道を転げ落ちるような「転職人生」が待っています。言葉は厳しいですが、負け犬はどこに行こうが通用しないのです。

あなたがまずすべきことは「心が折れる9人」に入らないようにすることです。残る1人になれて初めて、あなたには希少価値のある存在として"値段"がつきます。それこそレッグハンティングではなくヘッドハンティングの対象となるかもしれません。そうなればおのずと社内での評価も高まるでしょう。

まずは「同期でびりっけつ評価だったか」と割り切り、歴史上の偉人たちの伝記を読みあさることをお勧めします。

立志伝を頭に叩き込む

お荷物部署なのだから、暇でしょうがないはず。朝から晩まで読みふけりましょう。「あの人はこんな苦労を乗り越えていたのか」と、我がことのように感じ、勇気づけられるはずです。

歴史物が嫌いなら、バラク・オバマ米大統領について書かれた本でもいい。米ハーバード大学の法科大学院を出たエリートのように見えますが、過去には辛い経験をしています。幼くして両親が離婚し、幼少時代を異国の地で過ごしました。米国に戻ってからも肌の色の違いに悩み、ドラッグにも手を出したことを認めています。

普通の人だったら、そこで腐ります。悪の道への誘いはいくらでもあったわけですし、ごろつきになってもおかしくなかった。それ

お荷物でも"部署のエース"になるチャンス

10人いれば9人は腐る。残りの1人になれるかが勝負

腐らず努力を続けた「10分の1」は希少価値のある存在に

向上心を失った「10分の9」は市場価値なし

ピンチ脱出の鉄則 15

どんな部署でも「腐ったら終わり」希少価値を得る好機と捉えよ

でも、彼は超大国の大統領にまで上り詰めた。困難に見舞われた時に、人は何を考え、どう打開してきたのか。歴史から学ぶ点は少なくありません。

お荷物部署には、何らかの原因で上司とぶつかり、不遇をかこっている社員が必ずいます。次にあなたがすべき行動は、その中から光り輝く素質を持った人を見つけ、その心に火をつけ、10人中1人の〝希少組〟に引きずり込むことです。そんな同僚を増やしていけば、組織は必ず上向きます。

ここで述べたのは精神論に過ぎないかもしれません。しかし、あなたの心に希望が灯らなければ、部署はますます退廃していきます。そして、ビジネスパーソンとしてのあなたの未来も閉ざされてしまいます。歴史上の人物には、今あなたが直面しているような苦難が山のように降りかかりました。「賢者は歴史に学ぶ」ものです。

古田英明氏
Hideaki Furuta
縄文アソシエイツ社長
1953年生まれ。東京大学経済学部卒業後、神戸製鋼所に入社。その後、野村証券を経て、ラッセル・レイノルズにヘッドハンターとして入社。96年日本初のエグゼクティブ・サーチ会社となる縄文アソシエイツを設立。

Q 「また失敗したら」とマイナス思考になる

最近、仕事で大きな失敗をしてしまいました。会社が社員をリストラしようとしている中で、「また失敗したらクビになる」と考えると、怖くてたまりません。大過なく過ごすのが正解ですか。

A

若い世代にとってこの大不況はラッキーですよ。縮こまらずに、「これで上の世代が一掃される。ついに俺たちの時代が来た」と思ってください。40～50代のオジサンたちは、この不況を乗り切るために最後の大勝負に出ようとするでしょう。負ければ会社を去るしかない。何かが大きく変わる時は必ず世代交代を伴います。今は、若い世代にとって「チェンジのチャンス」というわけです。

だからこそ、20～30代の人には「失敗のススメ」を説きたい。やるだけやって、どんどん失敗しましょう。失敗は成長の糧なのです。この大不況の荒波に立ち向かって、水しぶきを浴び続けた人だけに輝ける40代が待っています。

ここで注意したいのは、失敗の原因を経済環境やら他人やらに押しつけないこと。そうやって失敗から逃げてはダメ。原因は自分にあることを認識し、至らなかった点をノートに列挙するなどして改善していく。その癖を今からつけてください。

むしろ恐れるべきは若い時の成功。成功して地位を得ると人間はリスクを取れなくなります。失うものが多すぎてどんどん保守的になる。あなたの会社の経営陣を見て、そう思う節はありませんか。

どんどん挑戦し、たくさん失敗して、上司から怒られてください。部下を怒るのって、かなりの気力と体力を要するから、よほどの愛情がないとできないんです。今は上司も余裕がないから、愛情がなくても怒ってくれます。若手にとっては激流にもまれる好機です。

ピンチ脱出の鉄則 16

成功を恐れ、失敗を喜べ 怒られて人は成長する